

木村賞第10回授賞報告（2021年度）

高木 真人*

横断型基幹科学技術研究団体連合（以下、「横幹連合」）は、横断型基幹科学技術の発展に寄与する優れた研究を顕彰したいとの第2代会長木村英紀氏のご篤志によりいただいたご寄付を基金とする木村賞を2012年度より設置し、横幹連合コンファレンスでの特に優れた研究発表を表彰している。2021年度は12月18日、19日に開催された第12回横幹連合コンファレンスでの発表論文に対して木村賞の選考を行い、1件の論文に木村賞を授与することとした。

本年度の具体的選考手順を以下に示す（木村賞授賞規程に基づく）。

- (1) 審査委員会の設置（2021年8月26日理事会）
審査委員会の構成：高木 真人（審査委員長、学術・国際委員会管掌副会長）他、幹事、委員4名
- (2) コンファレンス予稿原稿に基づく事前一次審査（2021年11月18日～11月29日）：審査対象論文60件より17件の一次審査通過論文を選考
- (3) 事前二次審査（2021年12月2日～12月11日）：一次審査通過論文17件より5件の二次審査通過論文を選考
- (4) 二次審査通過論文のコンファレンスにおける発表時審査（2021年12月18日、19日）：5件の候補論文の評点順位付け
- (5) 審査委員会で理事会に推薦する1件の論文を選考（2021年12月23日）
- (6) 理事会において2021年度木村賞受賞者を選考（2022年2月24日）

2021年度木村賞の1件の受賞者、対象論文ならびに選考理由は以下の通りである。

なお、授賞式は2022年5月26日に開催される横幹連合定時総会において行い、受賞者から受賞論文について発表していただく予定である。

2021年度木村賞受賞者、対象論文ならびに選考理由

受賞者：岡 檀（統計数理研究所）

対象論文：岡 檀（統計数理研究所）、

椿 広計（統計数理研究所）、

山内 慶太（慶應義塾大学）

「COVID - 19感染拡大による生活変化の把握と対策に資する質的/量的混合アプローチ」



選考理由：

本発表は、コロナ禍における自殺率増加の分析により、自殺予防因子を明らかにし、その定着および普及を目指したものである。

「横幹性」の面では、社会学、心理学、産業構造分析、統計学の融合により、産業構造による自殺率上昇を地域差および性差の関係から分析し、さらにマクロ的な地理的特性ならびにミクロ的な空間構造特性についての自然実験を用いたアプローチにより、自殺要因を分析している。あわせて自殺予防因子の一つである自己肯定感について、特に子供における自己肯定感を中心に要因分析を進めている。

「有用性」の面では、コロナ禍での自殺率の変化を推定する指標「自殺率上昇度」を作成すると共に、直近のデータによる要因分析を行うことによる自殺予防因子の強化を目指した、社会貢献度の高い研究であり、あわせて行政の政策立案にも貢献が期待される。

「将来性」の面では、述べられている自殺予防因子、産業構造分析、さらに地理的特性、コミュニティの空間構造特性の論点のより有機的な結合や、さらに広く他の分野との融合など、今後の展開が期待できる。

以上の理由により、木村賞審査委員会は、本論文を第10回木村賞授賞に相応しく、横断型基幹科学技術の発展に資する優れた論文であると評価する。選考理由に記述した通り、選考した論文「COVID - 19感染拡大による生活変化の把握と対策に資する質的/量的混合アプローチ」は、自殺リスクを抑制する自殺予防因子の分析ならびに強化を複合的な学術領域から行ったものであり、今後の益々の貢献を期待するものである。

*横幹連合副会長、木村賞審査委員会委員長、日本工学会

Received: 17 February 2022.